

HP Client Automation Starter および Standard

新機能およびリリース ノート

ソフトウェア バージョン:7.50/2009 年 5 月



重要な注意:

Client Automation バージョン 7.20 の発表にあたり、HP は [Core](#) および [Satellite](#) という 2 つの新しいサーバー コンポーネントを導入することによって、当社製品のインストール、設定、および使用法の簡素化と合理化を実現しました。これらのサーバー コンポーネントにより、当社製品のすべての機能を網羅した、エンド ツー エンドの体験を実感いただけます。

Core および **Satellite** (HPCA メディアの Documentation ディレクトリにある『HPCA Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を参照) は、**Windows Server** を主要なインフラストラクチャ プラットフォームとして使用している、新規に **Enterprise**、**Starter** および **Standard** ライセンス エディションを購入したお客様、またはバージョン 7.20 の **Core** および **Satellite** の実装から移行する既存のお客様にご利用いただけます。

UNIX インフラストラクチャのサポートをお求めの既存のお客様および新規のお客様は、『HPCA Configuration Server、Portal、Enterprise Manager 入門ガイド』をご参照のうえ、HP の **Client Automation** インフラストラクチャのインストール、設定、および使用を別の手段で実行する方法についてご確認ください。

このドキュメントでは、HP Client Automation (HPCA) Starter および Standard 製品の 7.50 リリースでの変更点の概要を説明します。各製品の新機能を箇条書きで示す一覧、各製品の現在のソフトウェアおよびハードウェア サポートを示す表、このリリースの一部のコンポーネントと HPCA の旧バージョンとの下位互換性を示す表があります。

- [このバージョンについて](#)
- [ドキュメントの更新](#)
- [ソフトウェアとハードウェアの要件](#)
- [インストールに関する注意事項](#)
- [移行に関する注意事項](#)
- [機能強化と既知の問題](#)
- [サポート](#)
- [法定の通知](#)

このバージョンについて

- HPCA 7.50 リリースより、HPCA Starter および Standard が Core および Satellite のインストールの一部として含まれるようになりました。Core および Satellite コンソールで使用できる機能は、アクティブなライセンスによって異なります。詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門 およびコンセプトガイド』を参照してください。
- Core コンソールに多くの新機能が追加および統合されました。Core Server の詳細については、『HP Client Automation Core および Satellite 入門 およびコンセプトガイド』を参照してください。

ドキュメントの更新

このドキュメントの最初のページには、次の識別情報が含まれています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。
- 発効日。このドキュメントが更新されるごとに変ります。

HP Software 製品マニュアルの Web サイトで、最新のバージョンのリリース ノートを使用しているか、また製品マニュアルやヘルプ ファイルが更新されているかを常に確認してください。この Web サイトでは、HP Passport ID とパスワードが必要となります。お持ちでない場合は、次のサイトから登録することができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport サインイン ページの **[New users - please register]** のリンクをクリックしてください。

HP Passport ID とパスワードを取得したら、次のサイトへ移動します。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

- 1 [製品] リストから、製品名 (例: Client Automation) をスクロールしてクリックします。
- 2 [製品バージョン] リストから、バージョン番号をスクロールしてクリックします。
- 3 [オペレーティング システム] リストから、オペレーティング システムをスクロールしてクリックします。
- 4 [(省略可能): キーワード、フレーズを入力してください] ボックスに検索用語を入力することができますが、これは必須ではありません。
- 5 検索オプションとして、[自然言語]、[キーワード全部]、[キーワードのどれか]、[完全一致/エラー メッセージ] のいずれかを選択します。
- 6 並べ替えのオプションとして、[適合率]、[日付]、[表題] のいずれかを選択します。
- 7 入力した検索条件を満たすドキュメントの一覧が表示されます。
- 8 言語によってドキュメントをフィルタリングすることができます。**[言語を選択: 英語]** の隣にある下向きの矢印をクリックします。ドロップダウン リストから別の言語を選択します。
- 9 ドキュメントを PDF 形式で表示する場合は、そのドキュメントの PDF ファイル名をクリックします。

注意: PDF 形式 (*.pdf) でファイルを表示するには、お使いのシステムに Adobe® Acrobat® Reader がインストールされている必要があります。Adobe Acrobat Reader をダウンロードするには、<http://www.adobe.com> にアクセスしてください。

7.50 でのドキュメント ライブラリの変更

このリリースでは、ドキュメント ライブラリに次の変更を行いました。

- Windows の新しい製品モデルに基づいて Starter および Standard 向けに次の新しいユーザー ガイドが追加されました。

- HP Client Automation Core Starter ユーザー ガイド
- HP Client Automation Core Standard ユーザー ガイド
- Starter、Standard、および Enterprise ライセンス ユーザー向けに HPCA Core および Satellite の単一のインストールおよびコンセプト ガイドを作成するため、既存の情報をまとめました。
- HP Client Automation Core および Satellite 入門 およびコンセプト ガイド

ソフトウェアとハードウェアの要件

特定の製品リリースでサポートされるのは、互換性の表に明示的に記載されているオペレーティング システムのみです。HP のソフトウェア リリースの初回出荷日より後にリリースされたオペレーティング システムは、別途記載がない限り、サポートされません。新しいオペレーティング システムがサポートされるようにするには、HP のソフトウェアをアップグレードする必要があります。

HP のソフトウェアはオペレーティング システムのサービス パックの新しいリリースをサポートしますが、最新のサービス パックに対して完全にテストされているのは HP のソフトウェアの新しいバージョンのみです。そのため、HP はお客様に対し、HP のソフトウェアの古いリリースと特定のオペレーティング システムのサービス パックの間で特定された互換性の問題を解決するために、HP のソフトウェアのアップグレードを要求する権限を留保します。

また、元のオペレーティング システム ベンダーによるサポートが終了するオペレーティング システムについては、(カスタム サポート契約にかかわらず) そのベンダーが当該オペレーティング システムのサポートを終了すると同時に HP ソフトウェアによるサポートも終了します。

HP は製品バージョンの廃止を定期的に発表しています。現在発表されている廃止プログラムについては、HP サポートにお問い合わせください。

次の表に、このリリースのソフトウェアとハードウェアの要件をまとめています。

表 1 プラットフォームのサポート

		R&D 内部バージョン			CA Standard サーバー (CCM)	CA Standard エージェント (CCM)
ベンダー	OS 名	OS のバージョン番号	ビット	チップセット		
Microsoft	Windows 2000	Professional SP4	32	x86	X	O
Microsoft	Windows XP	Professional SP3	32	x86	X	O
Microsoft	Windows XP	Professional SP2	64	AMD64/EM64T	X	O
Microsoft	Windows Vista	Business/Enterprise SP1	32	x86	X	O
Microsoft	Windows Vista	Business/Enterprise SP1	64	AMD64/EM64T	X	O
Microsoft	Windows 2000	Server SP4	32	x86	O	O
Microsoft	Windows 2003	Server SP2	32	x86	O	O
Microsoft	Windows 2003	Server SP2	64	AMD64/EM64T	O	O
Microsoft	Windows 2003	Server SP2	64	Itanium	?	?
Microsoft	Windows 2003	Server R2 SP2	32	x86	O	O
Microsoft	Windows 2003	Server R2 SP2	64	AMD64/EM64T	O	O
Microsoft	Windows 2003	Server R2 SP2	64	Itanium	?	?
Microsoft	Windows 2008 SP2	Server Standard/Enterprise	32	x86	O	O
Microsoft	Windows 2008	Server Standard/Enterprise	64	AMD64/EM64T	O	O
Microsoft	Windows 2008	Server Standard/Enterprise	64	Itanium	?	?

		R&D 内部バージョン			CA Standard サーバー (CCM)	CA Standard エージェント (CCM)
ベンダー	OS 名	OS のバージョン番号	ビット	チップセット		
HP	HP-UX	11.0、11.11、11.23、11.31	64	PA-RISC 2.0	X	X
HP	HP-UX	11.23、11.31	64	Itanium	X	X
Sun	Solaris	9、10	64	SPARC	X	X
Sun	Solaris	9、10	32	x86	X	X
Sun	Solaris	9、10	64	AMD64/EM64T	X	X
Novell	SuSE Linux Enterprise Server	8	32	x86	X	X
Novell	SuSE Linux Enterprise Server	8	64	AMD64/EM64T	X	X
Novell	SuSE Linux Enterprise Desktop	9、10	32	x86	X	X
Novell	SuSE Linux Enterprise Desktop	9、10	64	AMD64/EM64T	X	X
Novell	SuSE Linux Enterrpriss Server	9、10	32	x86	X	X
Novell	SuSE Linux Enterrpriss Server	9、10	64	AMD64/EM64T	X	X
Novell	SuSE Linux Enterrpriss Server	10	64	Itanium	?	?
Red Hat	Enterprise Linux ES、AS、WS	2.1	32	x86	X	X
Red Hat	Enterprise Linux ES、AS、WS	2.1	64	AMD64/EM64T	X	X
Red Hat	Enterprise Linux Desktop	4.0、5.0、5.3	32	x86	X	X
Red Hat	Enterprise Linux Desktop	4.0、5.0、5.3	64	AMD64/EM64T	X	X
Red Hat	Enterprise Linux Server、AP	4.0、5.0、5.3	32	x86	X	X
Red Hat	Enterprise Linux Server、AP	4.0、5.0、5.3	64	AMD64/EM64T	X	X
Red Hat	Enterprise Linux Server、AP	4.0、5.0、5.3	64	Itanium	X	X
Apple	Mac OS X	10.3、10.4、10.5		Intel	X	X
Apple	Mac OS X	10.3、10.4、10.5	32	PowerPC	X	X
Apple	Mac OS X	10.3、10.4、10.5	64	PowerPC	X	X
IBM	AIX	5.2	64	PPC	X	X
IBM	AIX	5.3	64	PPC	X	X

データベース サーバー

次の表は、HPCA 製品でサポートされているデータベース サーバーの一覧です。制限事項やその他の情報については、製品ドキュメントを参照してください。

- ▶ Intel SCS (OOBM 機能に必要) のサポートされているデータベースについては、HPCA Core 配布メディアの Media\oobm\win32\AMT Config Server ディレクトリにある『Intel AMT SCS Version 5.0 インストール ガイド』を参照してください。

表 2 サポートされているデータベース サーバー

データベース サーバー	バージョン
Microsoft SQL Server	2005
	2008
SQL Express	2005
	2008
MySQL	

MS SQL Server の要件

- MS SQL Server がスタティック ポートを使用するように設定する必要があります。スタティック ポートの使用方法の詳細については、SQL Server マニュアルを参照してください。

インストールに関する注意事項

各製品のインストール手順は、それぞれの『入門ガイド』または『インストールおよび設定ガイド』に記載されています。これらのガイドは Adobe Acrobat (.pdf) 形式で、製品 DVD の \Documentation ディレクトリにあります。また、HP Software 製品マニュアルの Web サイトにもあります。URL と検索方法については、ドキュメントの更新 (2 ページ) を参照してください。

Core Server および Satellite Server をインストールする場合は、『HP Client Automation Core および Satellite 入門 およびコンセプト ガイド』を参照してください。

移行に関する注意事項

HPCA の現在のバージョンへの移行については、次の移行に関する注意事項を確認してください。

- 現在のバージョンが HPCA Starter および Standard 2.11 または 7.20 の場合は、7.50 Core および Satellite に移行してください。

『HPCA Starter および Standard 移行ガイド』を参照してください。旧バージョンの HPCA Starter および Standard と Client Configuration Manager は、バージョン 7.50 の Core および Satellite に移行する前に、バージョン 2.11 に移行しておく必要があります。

機能強化と既知の問題

ここでは、新機能と既知の問題に関する情報を示します。

- **HPCA 7.50** リリースより、**HPCA Starter** および **Standard** が **Core** のインストールの一部として含まれるようになりました。**Core** コンソールで使用できる機能は、アクティブなライセンスによって異なります。詳細については、『**HP Client Automation Core** および **Satellite 入門** および **コンセプト ガイド**』を参照してください。**HPCA Starter** と **Standard** および **HPCA Enterprise** では、同じ **HPCA** エージェントとコンソールを使用できるようになりました。
- 新しい技術革新:
 - オペレーション ダッシュボード
 - モバイル デバイス、仮想デバイス
 - アウトバンド管理
- 機能強化:
 - 統合された **PXE**
 - リモート **OS** キャプチャ
 - ロール ベースのアクセス
- 改良点
 - 拡張されたハードウェア アラート (**SMART**)
 - 4 GB を超える **WIM** イメージ、**Windows XP** への配布 (**WinPE/ImageX**)
 - **Vista** セッション 0 プロンプト
- 改良されたシンクライアント管理
 - 独自の登録方式。**HPCA Registration and Agent Loading Facility (RALF)** は、**HPCA Core** インフラストラクチャで管理されるシンクライアントに使用できるエージェント コンポーネントです。**RALF** によって、**HPCA** インフラストラクチャへのデバイスの自動登録、およびメイン コンソールから開始される **HPCA** エージェントのインストールの管理が行われます。
 - **File-based Write Filter**

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager:複数のリソース ファイルに渡る Linux イメージの配布がサポートされない**

問題:	複数のファイルからなる Linux SOS で作成されたレガシー イメージの配布は失敗します。複数のリソース ファイル (ImageName.img、ImageName.002、ImageName.003 など) に渡って存在するイメージは失敗します。
原因:	Core/Satellite 環境でダウンロード中のファイルが適切に処理されません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager:[CD/DVD からインストール] オプションが失敗する**

問題:	ImageDeploy.iso で [CD/DVD からインストール] オプションが失敗します。
原因:	Core/Satellite 環境で、無効なヘッダーのため、ファイルがディスクに適切に展開されません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core/Satellite と OS Manager:WinPE SOS 実行時に「ブート操作が失敗しました」というメッセージが表示される**

問題:	繁体字中国語などの国際化されたプラットフォームで WinPE サービス OS から Windows ベースのイメージを配布した場合、システムが最初に Linux サービス OS を起動すると、エラーが発生する場合があります。 Linux サービス OS が、OS サービスを配布できない場合に発生することがあります（WinPE で配布する必要がある .WIN イメージなど）。WinPE サービス OS で処理される必要がある国際化された OS サービス名またはハードウェア設定 (LME) 名を参照しているイメージ配布またはハードウェア設定要素では、システムが最初に WinPE サービス OS に起動して、国際化された OS またはハードウェア設定オブジェクト名を識別および処理する必要があります。
原因:	CA インフラストラクチャにより提供されたハードウェア設定要素 (LME) と OS のサービス名を含む XML ドキュメントは、WinPE サービス OS と Linux サービス OS とを切り替えられるときに、一貫してエンコーディングされません。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core:Core コンソールの [設定] ページでライセンス ファイルをアップグレードしても、一部のコンポーネントサービスのライセンスが更新されない**

問題:	Core コンソールの [設定] ページを使用してライセンス ファイルをアップグレードした後も、コンポーネントサービスでライセンスが無効であるというレポートが表示されます。たとえば、Patch Manager にこの問題があることが判明しています。
原因:	更新されたライセンス ファイルが必要なコンポーネント モジュールが、Core コンソールの [設定] ページを通じて提供される新しいライセンス コンテンツを受け取っていないことがあります。
解決策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core または Satellite を TCP ポート 3466 が使用中のサーバーにインストールしようとすると失敗する**

問題:	デフォルトの TCP ポート 3466 がすでに使用中の場合、Core および Satellite のインストールが (エラー メッセージなしで) 失敗します。
原因:	インストール プログラムでは、必要な TCP ポート 3466 が使用可能であることを検証しません。
解決策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Windows CE シン クライアントのサポートに必要なシン クライアント サービスは Mini Management Service と呼ばれる**

問題:	Core Server または Satellite Server で Windows CE エージェントをサポートするために必要な HP Client Automation シン クライアント サービスは、従来の Client Automation 環境では Mini Management Service という名前で呼ばれます。
原因:	Windows CE シン クライアントのサポートに必要な rmms サービスに、製品領域によって異なる表示名が割り当てられたためです。
解決策:	バージョン 7.50 で解決済み。

****解決済み** Core: Enterprise Manager および Live Network のデフォルト設定を確認しないと接続エラーが発生することがある**

問題:	Core の設定により、Live Network レポート データベースの Enterprise Manager 設定のデフォルト設定が自動的に行われます。これらのデフォルト設定をそのまま使用すると、接続エラーが発生することがあります。
原因:	Live Network レポート データベースのデフォルト設定は、ダイナミック ポートを使用する SQL Server データベースなどの一部のデータベース設定で正確ではないことがあります。
解決策:	バージョン 7.50 で解決済み。

解決済み 設定ファイルのエラーのため Multicast Server が動作しない

問題:	HPCA Multicast Server が動作しません。
原因:	mcast.cfg 設定ファイルの変更が必要です。
回避策:	バージョン 7.50 で解決済み。

UTF-8 形式のパスワードを使用するユーザーがログインできない

問題:	UTF-8 形式のパスワードを使用する内部 (PORTAL) ユーザーはログインできません。
回避策:	ASCII パスワードを使用する必要があります。

Core: Portal LDAP ディレクトリのバックアップは Core Server ではサポートされていない

問題:	Windows NT サービスとして (たとえば、Core Server または CAS インストールから) Portal を実行する場合、Portal の ENABLE_BACKUP 設定パラメータを 0 に設定して維持する必要があります。
原因:	Windows NT サービス構成では、現在の CAE Portal のバックアップと複製 (セカンダリ slapd および slurpd プロセス) をサポートしていません。
回避策:	現在のリリースでの回避策はありません。Portal の ENABLE_BACKUP 設定パラメータを 0 (無効) に維持する必要があります。 現在のプロセス ベースの slapd/slurpd メカニズムは、使用されなくなる予定です。これらのプロセスは、Windows NT サービスの管理が実行するように変更中であり、次期リリースでは OpenLDAP のマルチマスター複製メカニズムを使用ようになります。

Core コンソール: Active Directory オブジェクトの初期表示が 1500 メンバーに制限される

問題:	1500 以上のメンバーがある Active Directory オブジェクトを参照すると、Directory から「member」属性に最初の 1500 メンバーのみが返され、Core コンソールに表示されます。
原因:	基盤の Portal エンジンと Active Directory と通信するために使用される Web サービスは、拡張性のため、最初に最初の 1500 の Active Directory メンバーを返します。Core コンソールまたは Enterprise Manager には、残りのメンバーは表示されません。
回避策:	残りのメンバーを表示するには、次のように範囲取得を使用して明示的にページを移動し、メンバーを表示します。member;range=####-####.

HPCA コンソールと OOBM SCS サーバー間の認証プロトコルとして NTLM を使用できない

問題:	現時点では、OOB 管理コンソールと SCS サーバー間の認証メカニズムに、NT LAN Manager (NTLM) v2 認証プロトコルを使用できません。
原因:	これは、HPCA コンソールが使用する Apache HTTP クライアントの制限による現象です。
回避策:	当分の間、別の認証メカニズムを使用して、これらのコンポーネント間の安全な通信を確立する必要があります。

OOB DASH デバイスが起動順序に関係なくハードドライブから起動される

問題:	起動順序に USB が含まれており、かつ USB から起動できない場合、起動順序のその他の起動元に関係なく、システムはハードドライブから起動されます。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題が原因です。
回避策:	なし

[すべてをリフレッシュ] を実行しても OOB DASH デバイスの情報が更新されない

問題:	[すべてをリフレッシュ] 操作を実行しても、OOB DASH デバイス情報が更新されません。
原因:	これは既知の問題です。
回避策:	すべての DASH デバイスを明示的に選択し (DASH デバイスはデバイス タイプでソートできます)、リフレッシュ操作を実行してください。

OOB DASH デバイスが、起動順序に指定されていないソースを含むすべての起動元を使用しようとする

問題:	ユーザーが永続的な起動オプションを選択している場合、起動順序に指定されていないソースを含む、すべての起動元を使用しようとします。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題です。
回避策:	なし

OOB DASH デバイスのブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できない

問題:	ブート設定の設定をデフォルトおよび永続的な起動に変更できません。これを一回限りの起動に変更することはできませんが、ユーザーは、2 回目のブート設定の設定を一回限りの起動に変更できます。
原因:	リストされている初回ブート設定の設定は永続的なブート設定の設定にハード コーディングされています。
回避策:	なし

一回限りのブート設定の OOB DASH デバイスを再起動する前に起動順序操作を実行する必要がある

問題:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアの再起動操作に一回限りの起動のブート設定の設定を選択している場合、ユーザーは、再起動前に起動順序操作を実行する必要があります。実行しない場合、リモート操作が誤って動作します。また、ユーザーが明示的な起動順序操作を実行しても、再起動後に、起動順序がデフォルトの起動順序にリセットされます。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題が原因です。
回避策:	なし

OOB DASH デバイスの初回起動元として不正なネットワーク コントローラが設定される

問題:	Dash が有効なデバイスでは、ネットワークを初回ブート デバイスとして起動順序を変更すると、初回起動元として、Broadcom DASH NIC の代わりに埋め込みネットワーク コントローラが設定されます。その結果、Broadcom NIC からの PXE 起動に失敗します。これは既知の問題です。
原因:	Broadcom NetExtreme Gigabit Ethernet Plus NIC ベースのハードウェアに関する問題が原因です。
回避策:	この問題を回避するには、F10 の [セットアップ詳細] メニューを表示してください。[デバイス オプション] リストの [NIC PXE Option ROM のダウンロード] オプションを無効にすると、埋め込み NIC PXE オプション ROM の読み込みを防止できます。このオプションを無効にした後、Broadcom PXE からの起動を再試行してください。

DASH デバイスがグループで OOB デバイスとして表示されない

問題:	DASH デバイスは、HPCA スタティック グループに属しているのに、[アウトバンド管理] > [グループ管理] のグループにリストされません。
原因:	仕様による制限です。
回避策:	なし

OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって Tomcat Server サービスが停止する

問題:	OOBM が Windows Server 2008 x64 AMD64T でセットアップされていると、ソフトウェア リストの配布によって Tomcat Server サービスが停止します。そのため、Windows 2008 x64 システムでエージェント存在に関連する機能が利用できなくなります。
原因:	この問題は、OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし

OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生する

問題:	OOB デバイスへのソフトウェア リストの配布によって、TLS モードにネットワーク エラー 26 が発生します。
原因:	HP Client Automation がインストールされたマシンのクライアント証明書が正しく設定されていません。
回避策:	HP Client Automation がインストールされたマシンにクライアント証明書をインストールし、config.properties ファイルの「ca_server_commonname」プロパティの値に証明書の件名を指定してください。

OOB デバイスのリモート操作ウィザードの [タスク] ページから次のページに移動できない

問題:	OOB デバイスのリモート操作ウィザードがフリーズしてしまい、次のページに進めません。
原因:	JRE のバージョンが正しくありません。
回避策:	JRE バージョン 1.6 以降をインストールし、Internet Explorer のオプションを選択して JRE プラグインをインストールしてください。このオプションを選択するには、Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [詳細設定] の順に移動し、[<applet> に JRE 1.6 を使用 (再起動が必要)] オプションを選択します。JRE のインストールと有効化が完了したら、Internet Explorer を再起動します。『HPCA Out of Band Management ユーザー ガイド』の「トラブルシューティング」章の記載は誤りで、ここに訂正いたします。その章には、JRE のバージョンが誤って 1.5 以降と記載されています。

デバイスのプロビジョン状態が変更後、vPro デバイスで OOBM リモート操作を行うとエラーが発生する

問題:	vPro デバイスのプロビジョン状態を変更すると (TLS モードの変更および異なる SCS プロファイルでのデバイスの再プロビジョニングなど)、個別または複数の vPro デバイスでリモート操作ができません。
原因:	OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。
回避策:	プロビジョン状態を変更するデバイスを選択し、[オペレーション] > [アウトバンド管理] > [デバイス管理] 画面の [デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。または、デバイスを選択せずに、[デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。後者は、完了までに時間がかかりますが、すべてのデバイス情報をリフレッシュするため、OOBM データベースに SCS データベースの情報と一致する最新の情報が読み込まれます。

OOBM vPro デバイスの無線ネットワークで SOL/IDER セッションの確立ができない

問題:	OOBM サーバーは、SOL/IDER 操作に Intel のライブラリを使用しています。Intel ライブラリは、SOL/IDER 操作に、ポート 16994-nonTLS/16995-TLS でリモート vPro マシンへの TCP 接続を開きます。このライブラリでは、SOL セッションと IDER セッションの確立に多くのタイムアウト パラメータを使用できます。場合によっては、無線ネットワークで、デフォルトのタイムアウト パラメータ値を使用中に、Intel ライブラリが SOL セッションの確立に失敗することがあります。
原因:	vPro デバイスでは、無線通信で OOBM サーバーと通信すると時間が長くなります。このため、SOL/IDER 操作がタイムアウトする場合があります。
回避策:	なし

OOBM DASH デバイスで、一回限りのブート設定がリセットされない

問題:	DASH デバイスが再起動した後に、デバイスで一回限りのブート設定がリセットされません。リモート操作で一回限りのブート設定が選択または有効になっている場合、リモート操作が正常に完了した後に、選択解除または無効になりません。この問題が発生すると、以降のすべてのリモート操作は、常に一回限りのブート設定を使用するようになります。
原因:	システム BIOS に関する問題です。
回避策:	再起動操作を実行する前に、一回限りのブート設定の起動順序を変更してください。

OOBM デバイス データベースに最新のデバイスがない場合、OOBM グループがリロードできない

問題:	OOBM グループがリロードできず、「指定された名前のデバイスはありません」エラーが表示されます。そのため、グループは更新されません。
原因:	OOBM データベースは、最新のデバイスで更新されません。
回避策:	OOBM デバイス探索操作をもう一度実行し、最新のデバイスに更新してください。この操作によって、グループのリロードに関するエラーは解決します。

vPro デバイスで OOBM リモート操作を実行しても何も起こらない

問題:	vPro デバイスでリモート操作を実行しても、結果またはエラー メッセージが表示されません。
原因:	1. OOBM データベースと SCS データベースの情報が一致していません。 2. ネットワークでデバイスが利用できない状態にあります。
回避策:	[デバイスの詳細] ウィンドウを閉じて、新しいウィンドウを開いてください。エラー メッセージを確認できるようになります。この問題が OOBM と SCS データベース間の不整合によって発生している場合は、前の項目で説明した [デバイス情報のリロード] ボタンをクリックしてください。

OOBM マルチ デバイス 画面の警告のサブスクリプション ステータスが誤っている

問題:	HPCA が Windows Server 2008 x64 AMD64T にインストールされている場合、警告のサブスクリプション操作は正常に行われますが、[ステータス] カラムに誤ってレポートされます。
原因:	この問題は、OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし警告はサブスクリプションされると、正常に受信されますが、ステータスは正しくレポートされません。

OOB vPro デバイスで SOL/IDER 操作の telnet セッションを開始できない

問題:	HPCA が Windows Server 2008 x64 (AMD64T) にインストールされている場合、SOL/IDER 操作で telnet セッションを開始できません。ただし、起動操作は正常に行われるため、正しいメディアからマシンが起動されます。この問題により、修復の使用ケースは完全にサポートされていません。たとえば、BIOS の更新は実行できません。
原因:	OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし。インタラクティブ。

Active Directory が Windows Server 2008 にインストールされている場合、OOBM は使用できない

問題:	Active Directory が Windows Server 2008 プラットフォームにインストールされている場合、OOBM は使用できません。
原因:	OOBM のサードパーティの依存関係が原因です。
回避策:	なし

OOBM SCS の I18N の問題

問題:	HPCA コンソールは、英語以外のオペレーティング システムにもインストールできますが、ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係からいくつかの制約があります。その結果、フィルタ、ウォッチドッグ、ポリシーなどユーザーが定義したアイテムのいくつかについては、英語以外の名前を入力することができません。BIOS セットアップ用の SOL コンソールは、サポートされる文字セットについてのみ機能します。同様に、その他の機能でも、英語以外のロケールでは期待通りには機能しないものがあります。数値、日付、時刻は、英語以外のオペレーティング システムのロケールでは表示されません。
原因:	ハードウェア BIOS や Intel SCS などの、基本となるコンポーネントや技術への依存関係。
回避策:	なし

英語以外のロケールで、OOB グループ管理機能がサポートされない

問題:	HPCA コンソールは、英語以外のロケールで OOB グループ管理機能をサポートしていません。英語以外のグループのリストを見ることはできませんが、そのようなグループに対する操作は行えません。
原因:	アーキテクチャ上の制限
回避策:	なし

OOBM 機能の日本語ロケールで、英語のパス区切り文字が表示される

問題:	HPCA コンソールには、日本語ロケールで英語のパス区切り文字が表示されます。
原因:	この制限は、Intel SCS コンポーネントが原因です。
回避策:	なし

SSL を有効にした後、Apache サーバーが起動できず、インストール パスには西ヨーロッパ文字以外の文字が含まれている

問題:	Core または Satellite で SSL を有効にした後、Apache サーバーが起動せず、インストール パスには西ヨーロッパ文字以外の文字が含まれています。
原因:	Core Server および Satellite Server で使用する Apache のバージョン (Apache 2.2.8) には、OpenSSL 証明書コードに既知の I18N の問題があります。Core Server または Satellite Server が西ヨーロッパ文字 (cp1251/iso8859-1) 以外の文字を含むファイル システム パスにインストールされ、SSL を有効化しようとする、エラーとなり Apache サーバーを起動できなくなります。
回避策:	西ヨーロッパ系以外のシステムで SSL を必要とする場合、Core Server または Satellite Server は ASCII 文字のみを含むファイル システム パスにインストールしてください。また、それまでの Core Server または Satellite Server のインストールは、必要に応じて Windows の [プログラムの追加と削除] を使用して削除してください。

Core および Satellite: RMRAM.INI ファイルの不正なポート番号が原因で、WinCE Agent サポートにエラーが発生する

問題:	Core および Satellite 環境では、WinCE Agent をインストールした後、RMRAM.INI ファイルの一部のポート番号が誤って設定されます。
原因:	CAE 環境と Core および Satellite 環境では、WinCE Agent のインストールに共通の CAB ファイルが使用されず、RMRAM.INI ファイルの RPD_PORT および RIM_PORT のデフォルト値は CAE 環境では適切ですが、Core および Satellite 環境では誤っています。これらの RPD_PORT および RIM_PORT 番号は、HPCA エージェントをインストール後、手動で「3466」に変更する必要があります。
回避策:	<p>Core および Satellite 環境では、次の手順で WinCE エージェントをインストールおよび設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> CAE 7.20 メディアの Agents\ThinClient\WinCE フォルダにある radskman.x86.CAB ファイルを使用して、WinCE エージェントをローカルにインストールします。 インストール ダイアログ プロンプトで次のエントリに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [HPCA サーバー - IP アドレス] WinCE エージェントでそのリソースを受信するために使用するサーバーを指定します。通常は、「シンクライアント」サービスで有効になっている Satellite を指定します (シンクライアント サービスは、WinCE エージェントを管理するためにのみ必要です)。 次のボックスをオンにします。 <input type="checkbox"/> [HPCA Portal 用に別のアドレスとポートを提供する] [Portal IP アドレス]: Core および Satellite 環境で、HPCA サーバーのホスト名または IP アドレスを Portal IP アドレスとして繰り返します (Satellite を指定すると、処理は Portal コンポーネントをホストする実際のサーバーにリダイレクトされます)。 [Portal ポート]: 3466 を指定します。 Enter キーを押して、WinCE エージェントのインストールを完了します。 インストール後、テキスト エディタを使用して \Hard Drive\Program Files\HP\OVCCM にある RMRAM.INI ファイルを開きます。 次の 2 つのポート番号を変更します。 RPD_PORT=3470 を RPD_PORT=3466 に変更 RIM_PORT=3461 を RIM_PORT=3466 に変更 変更を RMRAM.INI ファイルに保存します。 <p>これらの変更により、Core および Satellite 環境で WinCE エージェントがサポートされます。</p>

Core および Satellite: ディレクトリ サービス アカウントのコンソールへのアクセスを設定した後、「認証が変更されていません」が表示される

問題:	[ディレクトリ ホスト] フィールドに IP アドレスでディレクトリ サービス アカウントのコンソールへのアクセスを指定すると、「認証が変更されていません」が表示されます。
原因:	ディレクトリ サービス アカウントでは [ディレクトリ ホスト] フィールドに IP アドレスを指定できません。これは、2008 年 7 月バージョンの『Core および Satellite 入門およびコンセプト ガイド』を訂正する記述です。
回避策:	外部 Directory Server Account のディレクトリ ホストを、完全修飾されたホスト名を使用して指定してください。

ディレクトリ ホストに IP アドレスが設定されていると、外部の Directory Server Account を使った Core コンソールへのアクセスがエラーになる

問題:	ディレクトリ ホストを IP アドレスで指定すると、コンソール認証はディレクトリ サービス アカウントでは機能しません。
原因:	IP アドレスを使用してディレクトリ ホストを定義するには、関連する要件がいくつかあります。たとえば、そのアカウントは DNS ホスト アクセス権を持ち、有効なグループ名であること、また、AD では各アカウントがユーザー プリンシパル名 (userPrincipalName) を持つことが必要です。
回避策:	外部 Directory Server Account のディレクトリ ホストを、完全修飾されたホスト名を使用して指定してください。または、すべての Directory Server Account が userPrincipalName 属性セット、有効なグループ名、および DNS ホスト アクセス権を持つようにします。

Core/Satellite での Standard ライセンスの個人データのバックアップと復元

問題:	[ユーザー データと設定の移行] を [いいえ] に設定しても、OS 配布で設定の移行が試行されます。
原因:	この動作は、以前の OS 配布が、[ユーザー データと設定の移行] オプションを [はい] に設定して、同じデバイスで実行されている場合に発生することがあります。
回避策:	このような状況になった場合は、OS 配布を実行する前に、エージェントのインストール ディレクトリにある NovaPDC.cmd ファイルを削除して、移行を回避できます。

OS Manager のある Core/Satellite および CAE Classic: Prepviz のアップロードで OSM サーバーのディスク容量が不足してもチェックしたり停止したりしない

問題:	イメージのアップロード処理では、OSM サーバー上にアップロードが正常に完了するだけの十分な空きスペースがあるかどうかの検証を行いません。空きスペースが不十分だと、アップロードがエラーとなります。Core/Satellite 環境では、アップロードは正常に終了しますが、OSM サーバーではアップロードされたイメージ ファイルの保存でエラーとなります。不完全なファイルは、それが自動的に削除されるまで、数分間ロックされます。CAE Classic 環境では、アップロードはエラーとなり、OSM サーバーでもアップロードされたイメージ ファイルの保存でエラーとなります。不完全なファイルは、OSM サーバーが再起動されるまでロックされたままになります。
回避策:	イメージのアップロードが正常に完了するよう OSM サーバーのディスクに十分な空きディスク スペースがあることを確認してください。OSM サーバーの \upload フォルダにロックされたイメージ ファイルがあり、CAE Classic を実行している場合は、OSM サーバーを再起動して、ファイルのロックを解除して削除できるようにする必要があります。Core/Satellite 環境では、ロックされたイメージ ファイルは自動的にロック解除され削除されます。

OS Manager のある Core/Satellite および CAE Classic: Windows ネイティブ インストール イメージを CD またはキャッシュからオフラインインストールするとエラーになる

問題:	CD またはキャッシュからの OS イメージのオフライン インストールは、Windows ネイティブ イメージではできません。
原因:	これらのイメージは、Windows Native Install Packager を使用して作成されます。インストールに必要なファイルは、Windows OS インストール プログラムとは互換性のないファイルのエンコーディングに一時的に変換されます。CD またはキャッシュからのオフライン OS インストール中は、このファイル形式は元のエンコーディングには復元されません。そのためインストールがエラーとなります。
回避策:	なし

XPe で再起動すると RALF が表示されなくなる

問題:	HPCARalf75.msi でエージェントのインストールを開始せずに RALF を単独でインストールし、シンクライアントを再起動すると、HPCA-RALF のインストールが表示されなくなります。
原因:	HPCA-RALF を単独でインストールすると Enhanced Write Filter Commit が起動されないため、書き込まれたデータが Flash を確定せず、再起動するとインストール済みビットが表示されなくなります。RALF をインストールしてすぐ後に HPCA エージェントをインストールすると、確定が起動され、RALF が永続的なものになります。
回避策:	HPCA-RALF を単独でインストールする場合、EWF の確定を強制的に永続的になるようにします。

利用状況 I18N: 日本語のロケールでは最終収集時間がローカルのシステム時間と一致しない

問題:	利用状況の最終収集時間がローカルのシステム時間と一致しません。
原因:	利用状況の最終収集時間には、タイムゾーンのオフセットがありません。
回避策:	利用状況の最終収集時間は GMT で表されるため、ローカルのシステム時間を手動で変換する必要があります。

Vista でエージェントを手動でアップグレードすると、使用中の一時ファイルが検出され、ユーザーの介入が必要になる

問題:	setup-standard.cmd を使用して手動でエージェントをアップグレードすると、.temp ファイルが使用中であることを示すダイアログが表示されます。この問題は、アップグレードを Vista で実行している場合にのみ発生します。エージェントをコンソールから配布した場合、問題は発生しません。
回避策:	アップグレード中、(ダイアログによって [無視] または [OK] をクリックして) ダイアログを閉じ、エージェントのインストールを続行します。

UAC が有効になっている (非アクティブ) Vista では、setup-standard.cmd を管理者モードで実行する必要がある

問題:	UAC が有効になっている Vista にエージェントを手動でインストールすると失敗します。
原因:	Program Files ディレクトリに書き込むには、管理者モードが必要です。
回避策:	管理者モードでコマンド プロンプトを開始する必要があります。[スタート] メニューの [コマンド プロンプト] エントリを右クリックし、[管理者として実行] を選択します。setup-standard.cmd をこのコマンド プロンプトから実行します。

RMS ログにエラー「無効なコマンド名 "remove"」が表示される

問題:	対応する df ファイルのないキューから qf ファイルを削除しようとすると、ログ ファイルにエラー メッセージ「無効なコマンド名 "remove"」が書き込まれてファイルが削除されません。
原因:	これは、df ファイルが削除されたのに qf ファイルが残っているという異常な状況下で発生する可能性があります。通常、qf ファイルが処理されている間、開いたままになっていることが原因です。エラーを受け取っても、キューの処理は停止しません。
回避策:	Messaging Server を停止し、対応する df ファイルがないアクティブなファイルまたは qf ファイルをキューから削除してください。その後、Messaging Server を起動します。

依存パッケージ要件付きの一部の SuSE 10 パッチが間違っ「パッチ インストール済み」として報告される

問題:	SuSE 10 システムでは、依存パッケージがシステムにないと、エンタイトルメントを指定されたブリテンのいくつかに対するパッチがインストールできません。エージェント接続 (radconnect) がエラー 709 で終了しますが、Reporting Server では、[適用状況 (パッチ別)] ページに報告されるステータスは [パッチ インストール済み] のままです。
原因:	SuSE 10 システムでパッチのインストールに失敗すると、[パッチ インストール エラー] ステータスの HPCA オブジェクトが更新されません。
回避策:	Patch Manager からパッチをインストールする前に、パッチに必要な依存パッケージのすべてがすでにインストール済みで、SuSE 10 システム上にあることを確認してください。必要な依存パッケージがない場合は、エンタイトルメントが設定されたブリテン用のパッチをインストールする前にインストールしてください。依存パッケージがすべて揃っていれば、パッチのインストールは成功します。

サポート

次の HP Software サポート Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

この Web サイトでは、HP Software が提供する製品、サービス、サポートに関するお問い合わせ情報が掲載されています。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートでは、お客様がご自身で問題を解決するのに役立つ機能を用意しています。また、ビジネスの運営で求められる、対話型の技術サポート ツールにすばやく効率的にアクセスする方法を用意しております。サポートを受けるお客様は、サポート サイトを使って以下のことができます。

- 関心がある分野のドキュメントの検索
- サポート事例および機能強化リクエストの提出とサポート状況の追跡
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの問い合わせ先の確認
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェア ユーザーとのディスカッションへの参加
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

サポート エリアのほとんどでは、HP Passport ユーザーとして登録し、サインインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要になります。

アクセス レベルに関する詳細については、次を参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport ID を登録するには、次の URL を参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

法定の通知

サードパーティ ライセンス契約に関する詳細は、製品のインストール CD の License ディレクトリを参照してください。

©Copyright 2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

コンピュータ ソフトウェアの機密保持。所有、使用、または複製を行う場合には、HP からの正規のライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェア ドキュメンテーション、および市販品の技術データは、各販売業者の標準営業許可のもとに米国政府にライセンスされています。

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

サードパーティ ライセンス契約に関する詳細は、製品のインストール DVD の License ディレクトリを参照してください。

The Apache Software License, Version 1.1

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright © 1999-2001 The Apache Software Foundation. All rights reserved.

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft®、Windows®、および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

PREBOOT EXECUTION ENVIRONMENT (PXE) SERVER
Copyright © 1996-1999 Intel Corporation.

TFTP SERVER
Copyright © 1983, 1993
The Regents of the University of California.

OpenLDAP
Copyright 1999-2001 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA.
Portions Copyright © 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

OpenSSL License
Copyright © 1998-2001 The OpenSSLProject.

Original SSLeay License
Copyright © 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

DHTML Calendar
Copyright Mihai Bazon, 2002, 2003

Lab PullParser
Copyright © 2002 The Trustees of Indiana University. All rights reserved.

ソースおよびバイナリ形式での再配布と使用は、修正を加えた場合でも加えない場合でも、以下の条件に合致する場合に提供が許可されます。

- 1) ソースコードのすべての再配布において、上記の著作権表示、オリジナルソースコードにある作者一覧、この条件一覧、およびこのライセンスに示された免責条項を保持すること。
- 2) バイナリ形式でのすべての再配布において、配布時に付属するドキュメントまたはその他の資料に、上記の著作権表示、この条件一覧、およびこのライセンスに示された免責条項を複製すること。
- 3) すべての再配布に含まれるすべてのドキュメントには、次の確認事項を含めること。

「この製品には、Indiana University Extreme! Lab の開発したソフトウェアが含まれます。詳細は <http://www.extreme.indiana.edu/> を参照してください。」または、この確認事項が、ソフトウェア自体に、また、通常、サードパーティの確認事項などが表示される場所に表示されるようにすること。

4) 「Indiana University」および「Indiana University Extreme! Lab」の名称は、Indiana University からの事前の書面による許可なしに、このソフトウェアから派生する製品の保証または宣伝には使用しないこと。書面による許可については、<http://www.extreme.indiana.edu/> にお問い合わせください。

5) このソフトウェアから派生した製品には、Indiana University からの事前の書面による許可なしに、「Indiana University」名を使用すること、および、名前に「Indiana University」が表示されないようにすること。提供したソースコードが、他者の特許その他の知的財産権を侵害していないことに関して、Indiana University が再保証を与えることはありません。その反対に、Indiana University は、知的財産権の侵害に基づく他者からの申し立てを受ける責務を放棄します。